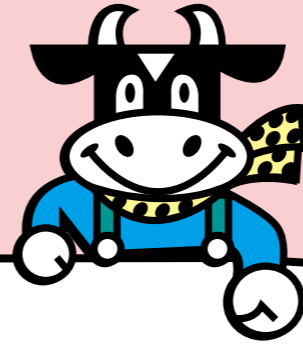




ワンポイント・アドバイス



コクシジウム症を予防しよう

みなさんはコクシジウム(通称コクシ)について何か対策はしていますか？

コクシジウムは寄生虫の仲間です。寄生虫は細菌とは違う生き物なので、菌をやっつけることを目的とする抗生物質(抗生剤)は効きません。しかも通常の消毒薬が効かない



コクシジウムのオーシスト (卵のようなもの)

いので、一度広まると手ごわい敵です。今回はそんな厄介者であるコクシジウムについて解説します。

●コクシジウムという生き物

コクシジウムは「オーシスト」とよばれる、コクシの入った卵のようなものが牛の口から体に入ることによって感染します。その卵の中からコクシが増えてきて、腸で増え、また牛の糞に混じってオーシストとして外へ出てきます。この過程は、約18日かかるといわれています(コクシにも種類があるので、種類によって差はあります)。牛群との接触や離乳のストレス、そしてコクシが増えるための日数もあわせると平均して生後1ヵ月から1年くらいの子牛に発症することが多いようです。



コクシジウムによる血便

●感染した牛はどのようになるか

コクシは腸の細胞の中で数100万〜数1,000万倍に増えるので、細胞は壊れてしまいます。食べ物を吸収するはずの腸はコクシによってぼろぼろに

なり、牛は下痢になります。下痢をすれば当然元気も食欲もなくなり目も凹んでやせてきます。また、増えていくコクシによって腸の破壊は続き、いよいよ出血します。その結果として血の混じった「血便」をするので。これが子牛の血便≡コクシといわれるようになったゆえんです。

●コクシジウムの予防と治療

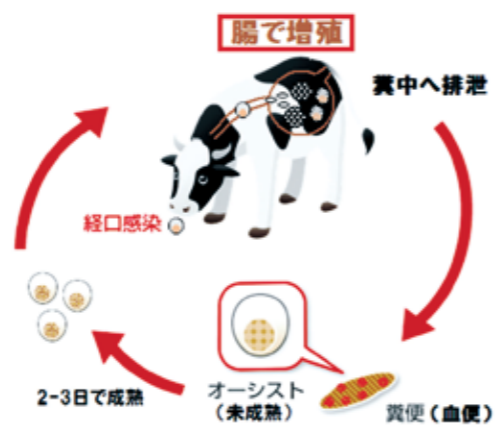
予防としては、感染疑いのある牛と接触させないことが1番です。牛舎内のオーシストをやっつけるのに有効な消毒剤の種類は「オルソ剤」(製品名: トライキルなど)です。またオーシストは熱に弱いので、生石灰を水と混合したものを牛舎全体にコーティングすると多少効果があるという報告もあるようです。

コクシの発症の予防としてはトルトラズリル製剤(製品名: バイコッ

クス)を発症の多い月齢になる1週間前に投与しておくことがあげられます。この薬は、オーシストが口に入っても、体の中で増えられないようにする作用があります。また、1度投与してから効果が4週間程度持続しますので、コクシが蔓延してからのコストや手間を考えれば非常に有効な手段でしょう。

治療としては、先に述べたトルトラズリル製剤が発症した牛にも有効という報告がある他、サルファ剤の投与があげられます。サルファ剤はトルトラズリル製剤ほどの長期間の効果はありませんが、コクシが牛の体の中で増えていく一過程で有効に作用します。

いずれにしても、その厄介さからコクシジウムは治療よりも予防に徹することが1番大切であると言えるでしょう。さて、コクシジウムの発症は4月から7月に多いといわれて



コクシジウムの感染の流れ

います。これからの季節、コクシジウムを予防して、この春を快適に過ごしましょう。